

REPORT  
2007  
9/27  
午後

# City Kids Child Care Center

[シティ キッズ チャイルドケア センター]

保育



## 個人を尊重し自立を目指す

香川県 カナン保育園 福岡浩史

トロント市の街中にあるシティー キッズ チャイルドケアセンター（以後センターと略）を見て最初に感じたことは、「意外に普通の大きさだ」であった。カナダに来てからすでにトロントで3施設の視察を終えて、どの施設も想像以上に規模が大きく、大きさに圧倒されていたが、それだけに、このセンターが日本の一般的な保育所と同じか、小さいぐらいだったので、とても親近感を感じた。

まず、このセンターの概要の説明を受けた。このセンターはトロント市が建てて、運営はセンターの独立採算の形とのこと。運営面では市からの補助はないので、公が建設し民間が運営する「公設民営」の保育所。規模は72名でWaiting（待機児童）が153名いると聞き驚いた。この待機児童は市からの補助を受けて入所したい人の待ちの数で、現在のところこのセンターには市からの補助を受けて入所している人はいないとのこと。保育料は非常に高く、0歳～1.8歳 77ドル/日（1カナダドル約120円で換算すると9,240円）1カ月で約20万円となる。職員関係では、所長や保育士とは別に、職員育成専任の職員がいるという説明を受けた。また、公立幼稚園が別があり、保育時間は1日2時間半で保育料は無料なので保育所に来ている子どもを幼稚園に送り迎えしているとのことであった。給食はケータリング（給食センター委託）で、栄養面など十分配慮がされていた。

続いて施設内を見学。各部屋はコーナーが多くありコーナーごとにいろいろな遊びが提供されており、驚いたのは部屋の中に砂場や水場があったことだった。トロント市の街中という立地条件からか、園庭がなく施設内のベランダのようなところで子どもたちは外遊びをしていたが、そのため、部屋遊びが中心となる保育になっており、園庭が少ない分、園外保育を多く設定していると説明を受け、「カナダのような大きな国でも都市部では土地問題はあ

るのだな」と感じた。移民の国らしく、部屋の中の人形はいろいろな肌の色の人形が置いてあり、また、福祉の意識を高めるために子どものおもちゃに車いすのおもちゃが置いてあったのが印象的だった。

このセンターを見学して思ったことは、カナダの保育は日本に比べて、よく言えば「個人を尊重し自立を目指す」で、悪く言えば「放任」だということ。年間3万ドルを「遊具とおもちゃ」に掛けて、「環境は整えたからあとは自分で自由にあそんでね」という感じを受け、保育者と子どもの関わりが少ないように感じた。おもちゃで気付いたのは、日本は木のおもちゃが重宝がられているが、このセンターや他の見学先の保育所ではあまり木のおもちゃを見かけることがなく、派手な色のプラスチック製の遊具とおもちゃが多いように感じた。食事に関して日本では「食」に関するこだわりや、「食育」についての議論が行われているが、カナダでは国民性なのか、あまり「食」に対するこだわりを日本ほどは感じなかった。また、移民の国ゆえ、個人の考え方や生活習慣などを尊重し、個人の権利を大事にするという姿勢を強く感じた。あと、部屋のいたるところに家族との写真が貼ってあり、常に家族の愛情を感じるように工夫がされていたのも特徴的だった。

カナダの視察を終えて感じたことは、カナダは広大な土地と多くの資源に恵まれ、経済が順調に発展し、その経済力が上手く国民に還元されている国で、カナダ人はその手厚い福祉政策の中で、自分たちの文化や個性を大切にしたい、のびのびと日々を楽しく過ごしている、本当に良い国だと思った。



室内にある砂場



車いすのおもちゃ